

災害に備え 命を守る

自分自身そして家族を大切に

9月6日(木)午前3時7分頃に北海道西部(胆振地方東部)で大きな地震が発生しました。最大震度は「7」。甚大な災害となりました。40名を超える尊い命が失われ、家屋、施設、インフラが破壊され、そして自然地形も大きく変わってしまいました。マスコミによって映し出される映像からも、大きな悲しみが伝わってくると同時に、やはり東日本大震災を想起させます。

長町中学校では、先日、期末考査が終了し、日常の学校生活が続いています。校舎から聞こえる体育祭の手拍子、音楽、楽しそうな笑い声。そして校庭では、ダンスの練習や演技の練習が始まり、皆さんの歓声が聞こえます。とても清々しい気持ちになります。

しかし、同じ日本で、同じ時間に、家族や家、そして仕事を失い、苦しんでいる人々がいます。私たちの日常からは想像する事が難しいですね。

あの時もそうでした。7年半前の3月、私たちの東北は、大きな被害を受け、悲しみに沈み、途方に暮れた方々が大勢いました。皆さんには記憶がないと思いますが、皆さんのご家族も大変な日々を過ごしたと思います。未だに東北地方は復興の途中です。仙台市の街全体は普通に戻ったように見えますが、あの時経験した人々の苦しみや悲しみは、ずっと続いていますし、消えることはないでしょう。東北の沿岸部では、まだまだ手が付けられていない箇所や新たな生活に希望を見いだせていない方々も多数います。

それでも、今回の災害では、心がホッとするような報道にも接します。仙台市一番丁の北海道アンテナショップでは、多数の仙台市民が立ち寄り、少しでも北海道の役に立とうと買い物客で賑わっているそうです。品薄になり、多くの商品が売り切れ状態のようです。インタビューに答える方々は、皆さん「あの時、全国から支援を受けた。今度は私たちが支える番。少しでも役に立てれば」と話していました。その中に若い人達が多くいた事も未来への希望を感じます。

当たり前で普通の生活が、わずか数分間で崩れ去る自然災害。この地震の前にも台風21号が西日本を襲い、阪神地方の都市部やこれまで被害を受けていた中国・四国地方もさらに追い打ちをかけられるような状態になり、日本中が被災地のようです。

皆さんの家庭では、災害が起きた時の備えは出来ていますか。家族がそれぞれの場所で活動したり、仕事したりしている時に大きな災害に遭遇した場合の帰宅方法等の約束事がありますか。学校では避難訓練を繰り返し、ある程度の決まり事がありますが、災害が起きるのは今回の北海道と同じように、深夜かもしれません。統計によると、災害は、学校の活動中ではない時間帯に多いそうです。なかなか家庭で話し合う時間はないと思いますが、災害に備え、自分自身の命を守り、家族全員の命が守られるように準備しておきましょう。

災害が起きて気付く、助け合い、関わり合い、絆、心優しさ等は、本当にかげがえのないものです。それと同時に、日常の何気ない生活の中で、生きることの大切さを皆さんと一緒に育んでいきたいと感じます。体育祭が近づいています。楽しく、心豊かに、笑顔で最高の1日にしましょう。それもまた、互いの命を大切に育てていくということに結びついていきます。